

【文教大学阿野ゼミナールの学生の感想】

■宇都宮大学との合同ゼミが実現できたきっかけは夏休みのことである。私が ELEC 英語教育研修会に参加し、宇都宮大学の田村岳充先生の講義を受講したのである。田村先生については、阿野先生からゼミの中でも話があり、田村先生の授業を DVD で拝聴したことがあり、このときの講演も私はかなりの楽しみにしていた。講義が終了し、田村先生とお話しさせて頂き、「文教大学と合同で勉強会をさせていただけないですか。」と失礼ながらお伺いしたところ、田村先生は快く、「ぜひ、やろうよ！」とおっしゃってくれました。それから数か月後、英語授業研究学会の秋季大会で田村先生がゼミ生を連れていらした時に、「この前の合同での勉強会の話の本格的に進めよう」ということで、宇都宮大学の学生さんと連絡を取り合いながら、日程調整をして 2 月 11 日に実現したのである。

当日はアイスブレイクから始まり、模擬授業や授業についてディスカッションを行った。宇都宮大学の学生が行った模擬授業では、ALT (Assistant Language Teacher の略。以下、ALT と表記。) との Team Teaching を想定した授業であった。日頃から模擬授業は何度も行うが、ALT を想定して授業を行うことはほぼしないため、宇都宮大学の学生が行った模擬授業は私にとって多くのことを学ばせて頂いたように思う。現場に入れば、ALT との Team Teaching はせざるを得ない。日本人の英語教師が ALT をどのように活用していけばよいか改めて教壇に立つ前に考えることができた。さらに私は合同ゼミで模擬授業を行い、田村先生をはじめ、宇都宮大学の学生からも様々なアドバイスを頂いた。私自身が授業を作る上で大切にしている「やり取り」について、たくさん学ぶことができた。

阿野ゼミに所属している私は同期そして後輩と共に神奈川県茅ヶ崎市にある文教大学で英語教育について学んでいる。一方で宇都宮大学の学生は栃木県で英語教育について学んでいる。宇都宮大学も文教大学も距離的にはかなり遠いが、共に目指しているものは一緒ではないだろうか。両大学とも、英語教師を目指し、どのように指導していけば子どもたちが英語に興味を持つのか、英語好きになるのかなど同じ目標や志を持っている。学んでいる場所は違えども、同じ目標や志を持つ仲間が大学を越えて増やすことができたことは私にとってかけがえのない宝物である。これからの英語教師としての始まりを前にとつもない財産を手にしたように感じている。今回、第 1 回目として宇都宮大学との合同ゼミを企画した発起人として、今後も後輩たちがこの合同ゼミを継承し、同じ志を持つ仲間を大学の内外を問わずに広げていってくれることを切に願っている。

4 年 上野 雅広

■ 2 月 11 日に、宇都宮大学の田村先生と英語教員を目指している学生 9 人と文教大学阿野ゼミナールの 2～4 年生とで合同ゼミを文教大学湘南キャンパスで行いました。今回が宇都宮大学との合同ゼミは初めてでした。合同ゼミの内容としては、模擬授業、また、企画コーナーとして授業での発問やインタラクションなどについてディスカッションを行いました。

私は、今回の合同ゼミでは普段では学べないことをたくさん学ばせて頂きました。特に、合同ゼミの醍醐味である模擬授業です。文教大学からは先輩方の 4 年生が 2 名、宇都宮大学の学生からは 3 年生が 1 名、1 人約 30 分程度の中学校の模擬授業をして頂きました。文教大学の 4 年生の模擬授業は、ゼミ活動中にもたくさん拝見させて頂きましたが、先輩方が来年から教壇に立つことが決まっている状況では初めて拝見させて頂きました。先輩方は、生徒とたくさん会話を交えながら授業を展開するスキルが高く、スムーズな授業展開をされていました。また、生徒の考えや発言をくみ取り、全体に共有するといったことなど、上手に行っていたため、参考にさせて頂こうと思いました。

宇都宮大学の学生の模擬授業は、ALT 役を交えながら授業を展開していました。宇都宮大学の学生とは、どのような授業の違いがあるのか考えていました。実際の模擬授業は、教師側 2 人で対話をしながら、例を出してペア活動に移ることや、文法事項を気づかせるなどの工夫がみられました。また、実際に場所をイメ

ージしてその場にいる雰囲気作りなど素晴らしいと感じました。模擬授業後の、田村先生、阿野先生のコメントで、生徒を巻き込んで会話を広げることや、褒めるだけではなく褒めた内容にも触れることなどの様々なアドバイスがありました。これらのアドバイスは、模擬授業を担当した方々だけではなく、私たちも応用できるアドバイスだと思います。

今回の合同ゼミを通して、先輩方の模擬授業、宇都宮大学の模擬授業、田村先生や阿野先生、また、学生のコメントやアドバイスから学んだことがたくさんありました。普段の授業では学ぶことができない、田村先生のコメントやアドバイスは非常に新鮮なものでたくさんの刺激を受けました。また、宇都宮大学の学生とディスカッションを行うことで、意見の交換をたくさんすることができ、お互いに深め合えることができたのではないかと感じています。今回の合同ゼミを毎年行うことができるように、引き継いでいこうと思います。これらの学んだことを活かして、これからの模擬授業や、5月に控えている教育実習に向けて日々精進します。今回はこのような貴重な時間をありがとうございました。

3年 高橋 昂輝

■私たち2年生にとって、宇都宮大学との合同ゼミでは、同じ英語教師を目指している他大学の生徒と関わる初めての機会となりました。また、これから模擬授業をしていく2年生にとって学ぶことも多く、その他にも一人ひとり今後の課題になりそうなことなど、学ぶべきことが得られるなど非常に意味のあるものとなりました。

まず、他大学の国際学部と違った教育学部という視点で議論することが新鮮に感じられました。その中で大きかったのは生徒へのアプローチの考え方を学ぶことができました。普段の授業では思いつかないようなアイデアも学ぶことができました。そして何よりも先輩方の授業を「見る」ことの大切さを学びました。これまでも数回ですが先輩方の模擬授業を拝見させて頂く機会がありました。しかし、模擬授業の見学中は授業の進行や文法指導を見がちでした。先日の合同ゼミでは宇都宮大学の学生含め3名の授業を体験させて頂きました。その中で特に感じたのは一人ひとりが違う個性を持っており、その人にしかできない授業があるのだと強く感じました。そして、授業を行う人ごとに英語の「場」作りが様々であるように感じました。そのため、今後自分たちで授業をつくる時は自分の個性を生かし生徒がより生きる授業づくりを試行錯誤していこうと思います。他にも、地元のことについて、生徒に質問し合う活動や、授業で取り上げることで、英語が苦手な生徒にも活躍の場を与えてあげられるといった技も学ぶことができました。そして、宇都宮大学の方が行ったチームティーチングの模擬授業は今までそのような模擬授業を見てこなかったのが驚きでした。実際の現場でALTと行うことも想定できるのでこのような模擬授業を行うのも違った視点から授業を行えるので効果的なのではないかと思いました。

そして、私が学んだのは先輩方の幅広い視点です。これについては学んだというよりも気づかされたように感じます。先輩方との意見交換では私たちが述べた意見よりもより深い視点で授業を見ていました。例えば、私たちは授業ばかり見てしまうのに対し、先輩方は指導案と比較しながら足りない部分や、言語材料、活動それぞれの目的など隅々まで追求しており私自身まだまだだな、と感じてしまいました。しかし、それと同時にそれらの視点を持つことが私たちにとってより良い授業づくりのベースになるのだと気づくことができました。そして、具体的なものとして、生徒の答えにリアクション(R)、コメント(C)、最後にクラス全体にクエスチョン(Q)レクラス全体で授業に参加していくインタラクション(RCQ)の広げ方も学ぶことができました。さらに、宇都宮大学の方の模擬授業では話し方と授業の雰囲気づくりを主に学ぶことができました。加えて、阿野先生や阿野ゼミの学生からの授業のコメントを聞けたが非常に良かったことであると思いました。普段阿野先生がおっしゃっていること以外の視点も田村先生の講評からいくつか学ぶことができました。

今回の宇都宮大学との合同ゼミで新しい生徒同士、田村先生との繋がりを得ることができました。このつ

なかりを大切に、またこの様な機会をつくって学び合いたいです。そして、学び合いを通して、一人ひとり様々な形のより良い英語授業を探求していこうという目標を持つことができました。この合同ゼミでの経験も今後の模擬授業作りに役立てていきます。

2年 岡本 隆洋